

研究テーマ：話す力を高めるための指導法

所属：香北町立香北中学校

氏名：河村 節子

RG JH9

「アクションリサーチⅠ」

1 研究の背景

3年生は34名で、ほとんどの授業をALTとT2の先生とともに3人体制で行っている。英語が苦手な生徒や生活面で援助の必要な生徒を中心に、より細かな支援ができるようになった。生徒たちは、英語を話せるようになりたいという願望が強く、さらに英語に対する興味を高めるためにも、自己表現活動が積極的にできるような雰囲気づくりを心がけ、ペアや班活動など仲間と関わりあえる授業をめざし、会話を高めていきたい。そのためにもより効果的なTTのあり方を模索していく必要がある。

2 リサーチ・クエスチョン：「話す力（会話を持続する）を高めるためにはどのような指導をすればよいのか」

3 予備調査

① 授業観察の結果

3年生は、全体的に明るく活発で、ペアや班活動に積極的に取り組んでいる。スピーチやスキット作り、発表などの自己表現活動に対しては、積極的に取り組める生徒がほとんどである。しかし、英語を苦手としている生徒も多く、学力差も大きい。苦手な生徒の中には、授業や家庭学習に積極的に取り組めない生徒も数名いる。

② 生徒の英語学習意識

アンケートの結果、「(どちらかといえば) 英語に興味がある」と答えた生徒は73%。読むことが好きな生徒は76%。聞くことが好きな生徒は64%。話すことが好きな生徒は52%。書くことが好きな生徒は58%。また、「読む」活動は毎時間取り組んでいることもあつて、比較的得意と感じている生徒が多いが、「聞く」「話す」「書く」活動は苦手としている生徒が多い。特に「話す」活動を得意と感じている生徒がいなかったことは課題である。

③ CRT分析結果より

- ・話す・聞く・書くことはほぼ全国レベルであるが、聞くこと（特に対話の質問）が低い傾向である。
- ・「具体的な内容や大切な部分を聞く」「基本的な話し方を理解する」「文章のあらすじや重要部分の理解」「文字等の知識を身につけること」といった点が苦手である。

4 仮説の設定

＜仮説1＞基本となる単語や文法が定着すれば、積極的に会話しようという意欲も高まり、また、スピークアウトもスムーズになるのではないかと。

＜仮説2＞リスニング力を高めれば、相手の話を理解し、会話の持続力をより高めることができるのではないかと。

＜仮説3＞教師との英語での会話や、生徒同士でのペアワークなど、自己表現の機会を多く取り入れていけば、英語での表現力、会話を高めることができるのではないかと。

5 計画の実践

＜仮説1の実践＞①毎時間単語5問テストを行う。（100点の回数をV1～つけていき、意欲づける。）

②新出文法既習後に、自己表現文を書く機会を設けていく。

③新出文法既習後、ALTやT2がピクチャーカードやドリルを使って、個人的に新出文法を用いた表現ができるかをチェックしていく。

＜仮説2の実践＞①教師（ALT、JTE）が、できるだけ多くの英語を授業で使っていく。

②各単元の中でリスニング活動をできるだけ多く取り入れる。

＜仮説3の実践＞①授業のはじめに、ペアでワークシートを用いての2分間トークや、ALTを中心にチャンツで会話表現に親しむ。

②ペアで、新出文法を含んだスキットを作り、発表する。また、友達のスキット発表を見て評価しあう。

③各定期テストでALTとのインタビューテストを行う。

6 結果の検証（アクションリサーチⅠの成果と課題）

①会話を高めるためには、単語や文法などの基礎的な知識の定着が不可欠であるという意識も高まり、単語テスト等にも意欲的に取り組み始めたことはよかった。さらに徹底していきたい。

②単語や基本文などの基本的なことは定着できても、会話の中で生かすことができていないので、パターン・プラクティスだけでなく、関連のある表現活動もしていかなければいけない。

③全体的に話す活動が少なかったため、できるだけ多く仕組む必要がある。

④ペアでのスキット作り、発表では、様々な表現を使つての会話練習が意欲的にでき、効果的であった。英語が苦手な生徒の中には、協力し合うことで少しずつ英語に親しむことができていいる者が、友達に頼りきる者もあり、個人で思考する場面をもっと仕組んでいく必要がある。

- ⑤相手の言っている内容を理解するためにも、リスニング力を高めるための効果的な方法を工夫していかなければいけない。(ナチュラルスピードに慣れる、文字の音声化、概要をつかむ、疑問詞の徹底など)
- ⑥あいづち、対応の仕方、答え方、表現したいことを瞬時に伝えていくトレーニングが必要である。

「アクションリサーチⅡ」

1 予備調査

① 授業観察の結果

進路に向けて、学習意欲も高まり、授業への取組もよい。特にペアでの活動を通して、英語が苦手な生徒が友達の支援を受けて、次第に意欲的に取り組み、スキットを作り、発表できるようになってきた。また、3年生は全体的にまちがうことを恐れず、ジェスチャーなどを使い、自己表現しようとする姿勢が見られる。

② 生徒の英語学習意識アンケートより

前回のアンケートより「英語を話す」ことが好きな生が2%増えた。また、英語を話すことがどちらかといえば得意とする生徒がいなかったのが、今回は数名に増えた。「生徒がつまずいている点、これができればもっと話せるようになる」という項目では、「単語、基本文の徹底」「相手の言っていることの聞き取り」「発音」が多かった。

2 仮説の設定はアクションリサーチⅠと同じ

3 計画の実践

＜仮説1の実践＞①毎時間単語5問テストを行う。教科書末の1, 2年生で習った単語。(100点の回数をV1〜つけていき、意欲づける。)

②新出文法導入後、1分間でできるだけ多く基本文を書くようにし、理解を図る。また、基本文テストを行い、定着を図る。1分間書く練習をした文を問題に出す。

③会話でよく使う疑問詞を徹底させる。

④3分間で、1つの単語やピクチャーカードからいろいろな文を書く。

＜仮説2の実践＞①ALTが簡単な絵本を朗読し、概要をつかむ。また、ナチュラルスピードに慣れる。

②歌を歌ったり、英語による落語のビデオを見るなどして、文字と音声の一致を図る。

＜仮説3の実践＞①ペアで新出文法を含んだスキットを作り、発表する。また、友達のスキット発表を見て評価し合う。

②各定期テストでALTとのインタビューテストを行う。内容はスキット作りで練習をした文法を入れる。

4 結果の検証 (アクションリサーチⅡの成果と課題)

- ① 単語や、基本文、疑問詞等は小テストなどを継続することで少しずつ定着しており、アンケートにもテストによって力が付いたと答えた生徒が3分の2いた。新出文を1分間で発音しながらたくさん書き取る練習では、非常に集中して取り組めた。特に、家庭学習習慣がついていない生徒にとっては、授業内で定着させることができ効果的であった。基本文テストも成果はあったが、応用力をつけていくことが課題である。3分間で1つの単語やピクチャーカードから様々な文を書く取組では、個人で考える活動となりよかった。
- ② リスニング力を高めるために、ALTの絵本朗読や歌、ビデオ鑑賞など、新しい取組ができたことはよかった。文字と音声を一致させることを心がけたことで、理解しやすくなり、生徒も興味をもって取り組んでいた。また、ALTのアイデアも取り入れ、ALTが授業で活躍する場をより増やしたことで、生徒がナチュラルスピードの英語に触れる機会も増えた。
- ③ ペアでのスキット作りは、1学期よりも回数を増やして取り組んだが、全員がお互いに意見を出し合い、意欲的にできた。1回目のスキット発表では、1分以上会話が続いたペアは2組であったが、数回目には、8組程度に増えた。長く会話を継続することを目標にすることで、生徒の意識も高まり、つなぎ言葉や質問等を工夫して持続しようと努力できていた。また、ALTとのインタビューテストも継続して行った。スキット作りで取り組んできたテーマで行ったこともあり、以前よりはスムーズに会話ができたと答えた生徒が増えた。しかし、とっさに答えたり質問したりする力はまだまだである。会話の即興性を高めていく活動が今後も必要である。

「成果と今後の課題 (アクションリサーチⅠ、Ⅱ)」

- ① 「話す」活動を得意と感じている生徒がいなかったのが、最後のアンケートでは、12人に増えたことはうれしい。また、スキット発表で、1分以上会話が続いたのが8組以上になったのも成果であろう。しかし、原稿もない自然な形での会話力をより高めていくための指導法が今後の課題である。
- ② アクションリサーチでは、生徒の状態やCRT等のテスト結果からの分析、また、生徒の声や要望を聞くことによって、自分自身にとっても、また生徒にとっても、自分を分析し今後の目標や課題を見つめるいい機会になった。
- ③ リサーチクエストンに対しての仮説や実践方法については、より研究していく必要があると思う。しかし、多くの先生方からアイデアやアドバイスを頂き、授業に生かしたことは大きな財産となった。特に、夏休み中の研修で様々な学習の仕方を体得できたことは大きな成果であった。自分自身の英語力の向上も今後の課題である。
- ④ 実践を積み重ねて、ALTやT2の先生への存在は大きく、感謝したい。今後もより効果的なTTのあり方を模索していきたいと思う。